



東金市立北中学校  
グランドデザイン2026

達成のための方策

達成のための方策

1 学びの確立とキャリア教育の推進

- 各時間のねらいとまどめを明確にした授業実践を積み重ねることにより、基礎・基本の定着を図る。
- 「主体的・対話的で深い学び」に向け『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用をとおして授業改善を図るとともに、学ぶ楽しさを教える。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な授業実践を行う。
- ICT機器の効果的な利活用と総合的な学習を中心に探究のプロセスの中で整理・分析・まとめ・表現に対する取り組みの充実に努める。
- 北中シラバス「あどばいす」を活用した指導をとおして、生徒の主体的な学習の取り組みを促す。
- 県標準学力検査及び全国学力・学習調査の分析結果を生かし、教科部会で具体的な方策を話し合うなど、PDCAサイクルを確立し、指導改善に繋げる。
- 朝読書及び学校図書館の利活用をとおして読書活動を推進し、学習の基盤となる言語能力の育成に努めるとともに、言語活動の充実に努める。
- キャリア発達を促すためにキャリアカウンセリングを日々実践する。また、キャリア教育の視点で教育活動を横断的につなぎ、生徒のキャリア発達を支援することにより、生徒の学習意欲の向上を図る。
- 自然や歴史・文化、社会生活や職業など体験型と地域人材を活用してキャリア教育の充実に努め、地域とともに歩む学校づくりを推進する。
- キャリア・パスポートを活用し、生徒個々の発達段階に応じた指導の充実に努める。

3 組織力の向上と開かれた学校づくり

- 年度当初、組織機能充実のための共通理解（報告・相談・連絡・報告）により組織化を図り、目標を共有して組織の機動力向上を図る。
- 学校評価アンケートを年2回（7月・12月）実施し、その結果に基づいた評価等を行う学校運営懇談会を年2回（9月・2月）開催する。その後、PDCAサイクルを意識して学校運営の改善を行う。
- 学校だよりの発行や学校ホームページの更新を隔週ごとに実施する。また、各学期に授業参観又はフリー参観を実施し、学校の様子を積極的に発信する。
- 生徒と向き合う時間を確保するため、学校及び教職員が担う業務の明確化・適正化を図り、時間外勤務の縮減と教職員の意識改革を行う。

5 特別支援教育の推進

- 個別の指導計画及び教育支援計画を作成し、個々の教育的ニーズに対応する。
- 定期的にケース会議を実施するとともに、保護者（合理的配慮の申出）や外部機関と連携し、個々の生徒に適した指導・支援をする。
- 特別な支援が必要な生徒への理解を深めるとともに、特別支援教育の視点から学習指導・生徒指導を行うよう考慮する。また、特別支援教育支援員と連携し、組織的な対応を行う。
- ユニバーサルデザインの視点に基づいた指導や環境づくりを進める。
- 障害者差別解消法の趣旨を踏まえた教育環境の整備に努める。

令和8年度学校教育目標

創 未来を拓く

～輝く瞳、笑顔とあいさつ、光る汗～

《めざす生徒像》「考え、行動し、夢をもって成長する」生徒

校訓 自分らしさを光らせて

- ① 学び合い、高め合う生徒 ～輝く瞳～ (知)
- ② 認め合う、心豊かな生徒 ～笑顔とあいさつ～ (徳)
- ③ 心身共に健康で、たくましい生徒 ～光る汗～ (体)

《めざす学校像》

- ① 学力向上に努める学校
- ② あいさつと歌声が響く学校
- ③ 安全で安心してすごせる学校
- ④ 地域と共に、信頼される学校

《あるべき教師像》

- ① 時代の変化に対応し、学ぶ楽しさを教える教師
- ② 生徒一人一人の個性を理解し、信用され信頼される教師
- ③ 常に生徒と共に協働する教師

経営の重点

◎ 生徒一人一人に自己を理解させ、学ぶ楽しさと生きる喜びを持たせ、将来への夢をもって心豊かに成長させる学校づくりを行う。そのためにCOPDサイクルをもとにして改善し続ける。

生徒の心構え(実践)

- ① 積極的に授業に参加すること
- ② わからないことをそのままにしないこと
- ③ 気持ちのよいあいさつ・返事をする
- ④ 2分前行動を心掛けること
- ⑤ 身だしなみを整えること

教師の実践

- ① 学習指導  
教材研究  
わかる授業の展開  
個別の指導・支援  
指導方法の工夫改善と評価の検討
- ② 生徒指導  
情報共有  
初期対応の迅速化と充実  
継続的な支援  
生徒の変容

危機管理

- 最悪を想定し  
慎重かつ  
速やかに  
誠意を持って  
組織で対応する

報告→連絡→相談→報告

2 豊かな心の育成と望ましい人間関係づくりの推進

- あいさつと歌声が響き、思いやりと連帯感のある居心地のよい学級・学年経営を行う。また、授業及び休み時間での観察と関わりをとおして、生徒同士、生徒と教職員との望ましい人間関係を構築する。
- 年2回以上はフリー参観日に道徳科の授業を公開する。また、道徳教育をはじめ、全教育活動をとおして人権感覚を育成する。
- いじめ防止基本方針に基づき、生徒理解に努め、教育相談の充実と学校生活アンケート等でいじめや不応等の早期発見・早期対応を図り、記録を残し、情報の共有を図る。
- 生徒指導の機能（自己決定の場の設定、自己存在感を高める、共感的人間関係を育む）を生かした授業を展開し、自己実現が図れるようにする。
- 食育の全体計画のもと、栄養教諭と連携し、食育を推進する。また、保健行事等で健康に対する意識の向上と正しい生活習慣の定着を図るとともに、保健体育科の授業をとおして、体力の向上と生涯体育の基礎を培う。
- 生徒会活動や各種行事を生徒による企画・運営で行い、生徒の自主・自治的な活動を育む場として位置づけ活動させる。

4 安全・安心な環境づくりの推進

- 危機管理マニュアル等（災害・引き渡しカード・避難所の運営等）を常に見直し、家庭・地域と連携して災害に強い学校づくりを進め、危機管理体制の整備を進める。
- 実効性のある避難訓練、引渡訓練の実施と具体的な事例（災害等）に関する学習をとおして、自ら危険を予測し、適切に判断し回避できる能力を育成する。また、地域の防災訓練への積極的な参加を生徒へ促すとともに保護者、地域と連携して、安全教育や防災教育に取り組む。
- 毎月の施設・設備点検を確実にし、修繕・改修が必要な場合は、関係機関と連絡をとり、早期に対処する。
- 学校管理下における生徒のケガや事故防止に努め、事故発生時は、管理職・養護教諭と連携（報告・相談・連絡）をとり、迅速に対処し、保護者への連絡をとる。
- 食物アレルギーに関する事故防止のため、全教職員がアレルギーに関する知識を深め、養護教諭・栄養教諭との連携を図り、生徒個々の正確な情報把握のもと、慎重に給食指導や授業・校外学習等を行う。

6 教職員一人一人の資質・能力を高める研修の充実

- 常に探究心をもって時代の変化に対応できる教職員集団を構築するために、校内研修の充実、要請訪問や相互授業参観をとおして、指導力の向上を図る。
- 個人研修を充実させ、教職員個々の資質・能力の向上に努める。
- 若手及び中堅の教職員はベテラン教職員から指導技術等を学び、自分の合ったスタイルが醸成できる「職員室文化」を確立する。
- 教職員としての自覚と誇りを持たせ、教職員の服務に関するガイドラインや各種危機管理マニュアル資料の熟知、モラルアップ委員会の充実により風通しのよい職場づくりを行う。